

本年は、アブラムシによるウイルス病、コナジラミによる黄化病の蔓延から枝の動きが悪い状況です。加えて平年と比べて根の張りが弱いため、生理障害や成り疲れ症状が発生しています。病気では炭そ病、べと病、つる枯れ病等が散見されます。今後は褐斑病や、害虫ではハダニ類、アザミウマ類、オオタバコガによる被害が心配されます。今後の収量向上や 8 月以降の樹勢維持のために、継続的に対策を図りましょう。

1. 樹勢強化対策・・・樹勢が低下する前に予防策を図り、早期枯れ上がりを防ぎましょう。

(1) 葉面散布：ハイプログリーンを中心に農薬散布時に混用してください。

ハイプログリーン	5 0 0 倍	樹勢向上、花勢強化、着果促進、品質向上等
ボロンセブン	1 0 0 0 倍	高温障害、薬害、生理障害、病気に対する強化
カルカル P	1 0 0 0 倍	カルシウム、亜リン酸、アミノ酸入り、芯焼け防止

◎アルカリ金属性や銅剤等の薬害の出やすいものとの混用は避けてください。

(2) 土壌かん注

使用目安：果実収穫後 10～15 日に 1 回程度、栽培期間中 4 回以上

ハイプログリーン	3 0 0 倍	アミノ酸入り栄養剤(成分 6-5-5)
ハイブリッター	3 0 0 倍	リン酸、カリの補給、土壌団粒化で発根促進、酸素供給

上記 2 剤と下記のどちらか合わせて 3 剤混用がより根の活力向上に繋がります。

太古の底力	1 0 0 0 倍	発根促進など（側枝が少ないとき）
ボロンセブン	1 0 0 0 倍	養分補給など（生理障害がある場合）

かん注方法：株間に深さ 15～20cm へ 1 l 注入する

◎かん注の効果は根に直接栄養を与え、酸素を供給します。継続的な土壌かん注が重要(ポイント)となります。

◎かん注機は、営農センター又は事業所(延徳、倭)にありますので貸出し希望される方は担当者または事業所へご連絡下さい。

2. 生理障害

(1) 曲がり果

症状：曲がった果実の総称、土壌の乾燥で多い尻細、樹勢が弱くなると増える尻太等。

主な発生原因：株の老化、葉の病気、肥え切れ、日照不足等で栄養状態が悪くなると発生が多くなる。

対策：葉の同化機能を高める。⇒栄養剤の補給（葉面散布、土壌灌注）、適期追肥、土壌の極端な乾燥、過湿を避ける。老化葉や混みあっている葉を摘葉し、下葉にも光線をあて、葉の枯れ上がりを防ぐ。強度の摘葉はしない。商品性のない不良果は早めに摘果する。

(2) 流れ果

症状：果実の肥大が途中で停止し、黄化・萎ちようして最後はミイラ状になる。開花前に症状が出るものと開花後に症状が出るものとがある。

主な発生原因：多窒素、多かん水、日照不足等により栄養生長過多で勢草が強すぎる場合と土づくり不足、肥え切れ、根張りの不良等により弱くて流れる場合がある。

対策：①強くて流れる場合は、窒素系肥料、かん水を控え、摘葉、側枝摘み、P、K 主体の葉面散布剤の散布（PK ゴー3,000 倍液）

②弱くて流れる場合は、葉の同化機能を高める。⇒栄養剤の補給（土壌灌注、葉面散布）、適期追肥（やりすぎは禁物）、マルチ内灌水等により根の発達を促す。

褐色の病状

(3) 褐色の病状

症状：葉の裏面に葉脈に沿って褐色の油浸症状が発生する。

果実は不良果が多くなり、中位以下の主枝葉に発生が多い。

主な発生原因：株の老化、成り疲れ、根の張りの不良。

対策：栄養剤の補給（土壌灌注）により、根の発達を促す。



3. 追肥、かん水

(1) 追肥：収穫量を見ながら肥切れとなる前に生育に応じて10a当りN成分で1.0～2.0kg施用する。
→「ノルチッソ」を10a当り12～16kg/回（目安：7月下旬より10日間隔）
併用して「バイオ有機S」を10a当り10kg/回を散布する。液肥で使用する場合は、「スーパーノルチッソ」を500倍で灌水する。

(2) かん水：かん水は涼しい時間帯が続く夕方を基本とし、土壌の乾き具合を見ながら少量多回数できめ細かく行う。きゅうりは、最盛期1株当たり1日3ℓの水分が必要。
通路の乾燥は、品質の低下や側枝の発生が悪くなるので注意する。またマルチ内も乾燥している圃場があるので、カッター等で穴をあけて、根域がひろがるように全体に灌水する。

4. 整枝←整枝よりも摘葉を重視する。

(1) 摘葉：下葉の老化葉、黄化葉の除去。側枝の採光をさえぎる親葉の除去
1 回につき株当たり 5～7 枚を限度として行う。

(2) 摘果：曲がり果や不良果を中心に果実の小さいうちに行う。

葉の裏側に葉脈にそって、褐色の病状が見られる場合は、特に根の張りが悪いので摘果等を行い樹勢のバランスを保つ。

(3) 整枝：根の維持を図るため、常に生長点のある枝を株当たり最低4～5本確保する。
短い側枝は、すぐ止めず放任とする。
孫枝は、多く残すと過繁茂、光線不足になるので注意する。

5. 病虫害防除対策

今年は低日照により、高温時の散布で葉の淵に薬害症状が発生しています。日中高温時での散布は避けてください。特に銅剤は注意が必要です。

(1) 病害対策

つる枯病…トップジン M ペーストを地際から 10～20 cm 病患部に塗布する。またはトップジン M 水和剤を 1,500～2,000 倍液を散布する。

褐斑病…高温多湿状態で発生が多くなる。

葉に淡褐色の小斑点症状が見られ、進行すると灰褐色で大型の不整円斑を形成します。

褐斑病の発生が心配される場合は、特別散布としてダコニール 1000 の 1000 倍とコサイド 3000 の 2000 倍液を 5 日間隔で散布する。

ウイルス病…果実に凹凸やねじれたりして奇形になるズッキーニ黄斑モザイクウイルス (ZYMV) は、感染する恐れがあるので、株を抜き取り圃場外へ処分してください。

(2) ハダ二類対策

発生の多い場合は、瞬発性の高いコロマイト乳剤を特別散布する。但し、2回以内。

(3) 基幹防除【露地作型】 ※展着剤はハイテンパワーを基本に使用する。

防除時期	使用薬剤名	倍率	水1000当り 使用量	対象病虫害()は発生病害虫
8月上旬	モレスタン水和剤 ディアナ SC	2,000 倍 5,000 倍	50g 20ml	うどんこ病、ハダニ類 アザミウマ類、ハモグリバ類(コナジラミ類、オオタバコガ)
8月上旬(塗布)	トップジン M ペースト	原液		つる枯病
8 月上中旬	ベルクートフロアブル ダブルフェースフロアブル アルバリン顆粒水溶剤	2,000 倍 2,000 倍 2,000 倍	50ml 50ml 50g	うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、炭そ病 ハダニ類 アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類
8 月中旬	ハチハチ乳剤 オーソサイド水和剤 80	1,000 倍 600 倍	100ml 166g	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類 べと病、炭そ病、褐斑病
8 月中旬～ 下旬	ネクスターフロアブル カネマイトフロアブル ウララ DF	1,000 倍 1,000 倍 2,000 倍	100ml 100ml 50g	うどんこ病、褐斑病、灰色かび病 ハダニ類 アブラムシ類、コナジラミ類、(アザミウマ類)

① 炭そ病、褐斑病、べと病等は発病葉の葉かきをしてから薬剤散布をする。

②農薬散布は降雨前を基本とするが、長期間雨が続くときは小降りのときに雨中散布も行う。

③農薬散布は、一方向だけでなく、逆方向からも行い薬剤が満遍なくかかるように散布する。

6. 高温対策

きゅうりの根は浅根でありマルチ下の根やけを防止するため、敷ワラをマルチの上も厚めに敷いてください。